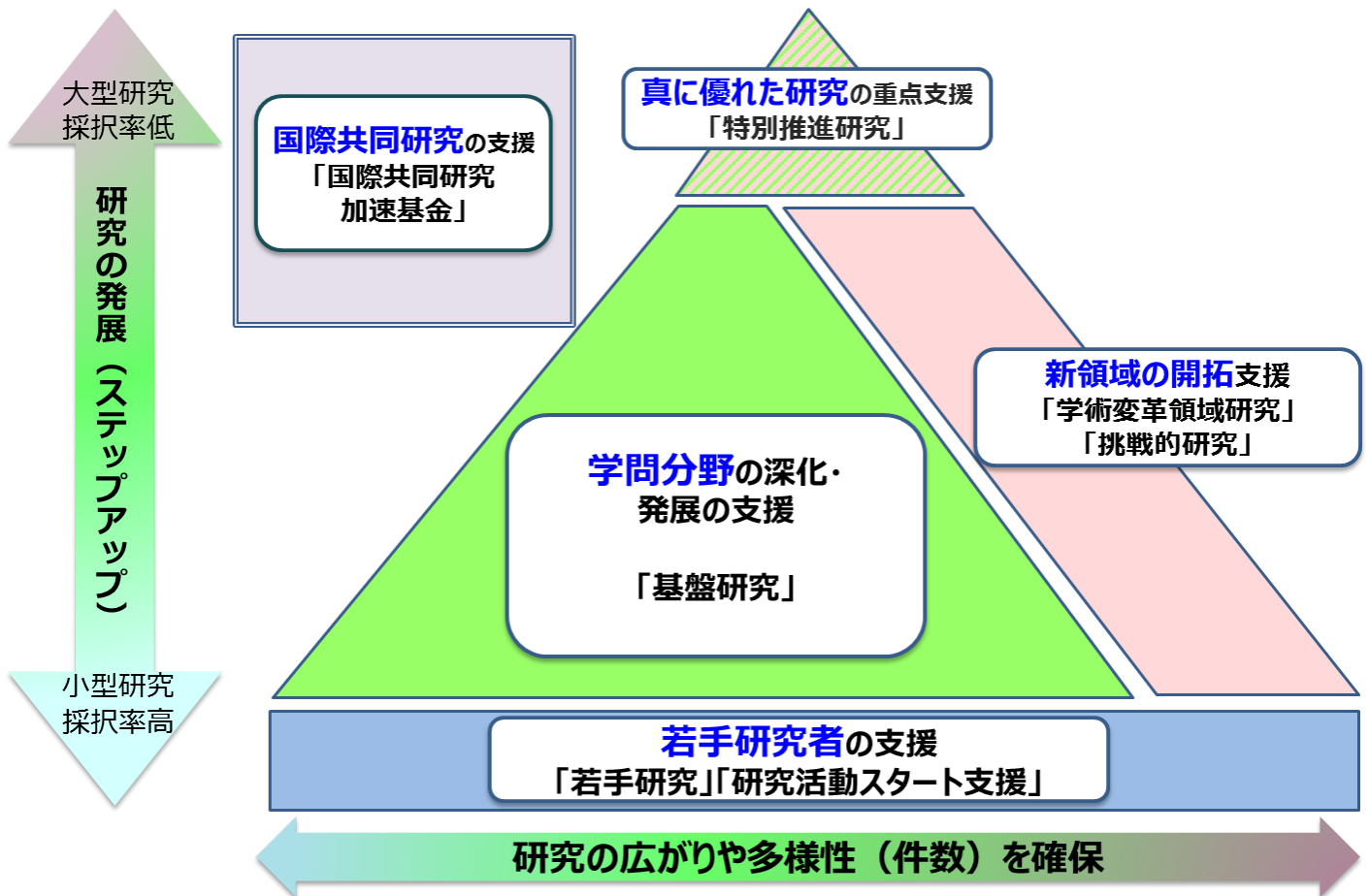


科学研究費助成事業及び配分状況の概要

- 科学研究費助成事業は、人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究（研究者の自由な発想に基づく研究）」を対象とする「競争的研究費」です。
専門分野の近い複数の研究者による審査である「ピアレビュー」という方式によって、独立行政法人日本学術振興会を中心とした審査を経て、その配分が決定されています。
 - 科学研究費助成事業には、助成内容、研究期間、助成規模により、様々な応募区分（研究種目等）が設定されています（図1）（表1）。
 - 本「概要」では、科学研究費助成事業のなかでも、研究者個人や複数の研究者のグループによる研究を対象としている主な研究種目（※）について、その新規採択状況を中心にポイントを紹介します。
- ※ 科学研究費助成事業の研究種目のうち、「特別推進研究」、「新学術領域研究（研究領域提案型）」（計画研究及び公募研究）、「学術変革領域研究」（計画研究及び公募研究）、「基盤研究」（特設分野研究を除く）、「挑戦的研究」（特設審査領域を除く）、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金（国際先導研究及び国際共同研究強化（B）」）。

【図1 科学研究費助成事業における主な研究種目のイメージ】



【表 1 科学研究費助成事業における研究種目等】

令和5年1月現在

研究種目等	研究種目等の内容・目的	補助金・基金の別	
科学研究費			
特別推進研究	新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される1人又は比較的少人数の研究者で行う研究 (3~5年間(真に必要な場合は最長7年間)2億円以上5億円まで(真に必要な場合は5億円を超える応募も可能))	補助金	
新学術領域研究 (研究領域提案型) ※1	【令和2年度公募以降、継続研究領域の公募研究のみ公募】 多様な研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成、設備の共用化等の取組を通じて発展させる (5年間 1領域単年度当たり1,000万円~3億円程度を原則とする)	補助金	
学術変革領域研究(A) ※1	多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究 (5年間 1研究領域単年度当たり 5,000万円以上3億円まで(真に必要な場合は3億円を超える応募も可能))	補助金	
学術変革領域研究(B) ※1	次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ(3~4グループ程度)が提案する研究領域において、より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、将来の学術変革領域研究(A)への展開などが期待される研究 (3年間 1研究領域単年度当たり 5,000万円以下)	補助金	
基盤研究(S)	1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究 原則5年間 5,000万円以上 3億円以下	補助金	
基盤研究 (A・B・C)	1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究 (A) 3~5年間 2,000万円以上 5,000万円以下 (B) 3~5年間 500万円以上 2,000万円以下 (C) 3~5年間 500万円以下	(A)	補助金
		(B)	補助金
		(C)	基金
挑戦的研究 (開拓・萌芽)	1人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究 なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする (開拓) 3~6年間 500万円以上 2,000万円以下 (萌芽) 2~3年間 500万円以下	基金	
若手研究(A・B)	【平成29年度公募分まで】 39歳以下の研究者が1人で行う研究 (A) 2~4年間 500万円以上3,000万円以下 (B) 2~4年間 500万円以下	(A)	補助金
		(B)	基金
若手研究	【平成30年度公募以降】 博士の学位取得後8年未満の研究者(*)が1人で行う研究 (*)博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む 2~5年間 500万円以下	基金	
研究活動スタート支援	研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究 1~2年以内 単年度当たり150万円以下	基金	
奨励研究	教育・研究機関や企業等に所属する者で、学術の振興に寄与する研究を行っている者が1人で行う研究 1年間 10万円以上 100万円以下	補助金	
特別研究促進費 ※1	緊急かつ重要な研究課題の助成	基金	
研究成果公開促進費			
研究成果公开发表	学会等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成	補助金	
国際情報発信強化	学協会等の学術団体等が学術の国際交流に資するため、更なる国際情報発信の強化を行う取組への助成	補助金	
学術図書	個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成	補助金	
データベース	個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするものの助成	補助金	
特別研究員奨励費	日本学術振興会特別研究員(外国人特別研究員を含む。)が行う研究の助成 (3年以内(特別研究員-C P D(国際競争力強化研究員)は5年以内))	補助金 ※2	
国際共同研究加速基金			
国際先導研究	我が国の優秀な研究者が率いる研究グループが、国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際的に高い学術的価値のある研究成果の創出を目指す。ポストドクターや大学院生の参画により、将来、国際的な研究コミュニティの中核を担う研究者の育成にも資する。 (7年(10年までの延長可) 5億円以下)	基金	
国際共同研究強化(A)	科研費に採択された研究者が半年から1年程度海外の大学や研究機関で行う国際共同研究。基課題の研究計画を格段に発展させるとともに、国際的に活躍できる、独立した研究者の養成にも資することを旨とする (1,200万円以下)	基金	
国際共同研究強化(B)	複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指す (3~6年間 2,000万円以下)	基金	
帰国発展研究	海外の日本人研究者の帰国後に予定される研究(3年以内 5,000万円以下)	基金	

(注1) ※1の研究種目等の審査は、文部科学省が実施。

(注2) ※2の「特別研究員奨励費」は、令和4年度第2次補正予算により基金化。

(I) 全体・研究種目別の状況について（資料1）

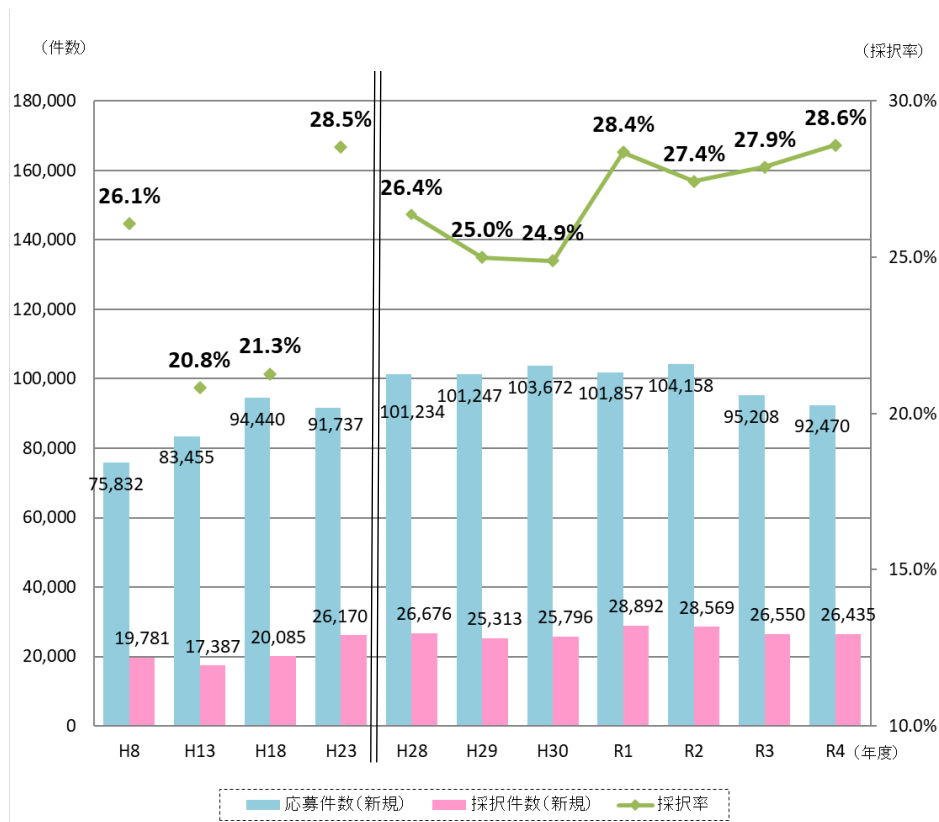
<応募・採択状況>

- 令和4年度の主な研究種目の新規応募件数は9万2,470件で、引き続きコロナ禍に伴う継続研究課題の延長（※1）などが影響し、前年度よりも2,738件（2.9%）減少しました。新規採択件数は2万6,435件で、前年度よりも115件（0.4%）減少しましたが、新規採択率（※2）は28.6%となり、前年度を上回りました（図2）。なお、継続分を含めた採択件数全体は、8万3,444件となっています。
- 令和3年度に創設しました「国際先導研究」は、新規応募件数が131件、新規採択件数が15件、新規採択率が11.5%でした。コロナ禍で停滞した若手研究者の海外長期派遣を含む国際共同研究に対するアカデミアからのニーズが高く、100件を超える応募がありました。応募書類は英語での作成を求め、独立行政法人日本学術振興会では国際審査を実施するための体制整備が行われました。
- 「若手研究」については、新規応募件数は1万3,142件で、前年度よりも21件（0.2%）減少し、新規採択件数は5,293件で、前年度よりも1件減少しました。しかし、新規採択率は40.3%で、前年度（40.2%）を上回るとともに1課題当たりの配分額も増加しました。
また、「研究活動スタート支援」の新規応募件数は3,617件で、前年度よりも48件（1.3%）減少しました。新規採択件数は1,391件で、前年度から11件（0.8%）減少しましたが、新規採択率は38.5%で、前年度（38.3%）を上回りました。

※1 令和3年度の繰越件数は、8,483件（令和元年度：3,758件、令和2年度：8,189件）で、令和元年度より4,725件、令和2年度より294件増加した。また、令和3年度末に研究期間を延長した課題は18,303件（前年度：13,340件）で、前年度に比べ4,963件増加した。繰越や研究期間延長の事由の大半は、昨年度と同様に、コロナ禍により研究を計画どおりに進められないというものであった。なお、繰越手続きに当たっては、繰越事由が早期に発生しているものについても配慮するため、昨年度に引き続き、繰越申請の受付回数を3回とした。さらに、基金種目については、研究計画最終年度の翌年度まで研究期間の延長が可能であったところ、コロナ禍における特例として、令和2年度に令和3年度までの延長が承認された課題について、令和4年度までの延長を認めることとした。

※2 新規採択率とは、新規採択件数／新規応募件数。第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3～令和7年度）の政策目標は30%。科研費改革の実施に当たり、改革の基本的な考え方として、「科研費の充実・強化に当たっては、それぞれの研究種目の性質や個々の計画への適切な配分（充足率等）に留意しつつ、新規採択率の全体目標（30%）の達成を目指す。」としている。

【図2 科研費の応募・採択件数、採択率の推移】（新規）



(注1) H8、H13、H18、H23、H28、R3は、各第1期～第6期科学技術・イノベーション基本計画の初年度。
 (注2) 平成30年度以降は、「新学術領域研究(研究領域提案型)」の成果取りまとめ経費は除く。

(参考) 繰越件数の推移

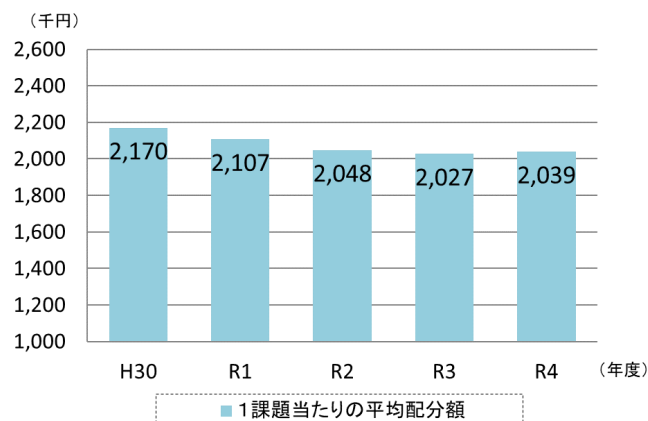
H30	R1	R2	R3
2,445	3,758	8,189	8,483

※当該年度に、次年度へ繰越した補助金種目の件数であり、基金種目を除く。

<配分額>

- 令和4年度に採択された研究課題8万3,444件(新規2万6,435件、継続5万7,009件)に対して配分された助成額は、2,212億円(直接経費1,701億円、間接経費510億円)となっており、前年度より1.1億円減少しています。直接経費と間接経費の割合は、10:3となっています。
- 新規採択分と継続分を合わせた1課題当たりの平均配分額(直接経費)は、203万9千円となっており、前年度より1万2千円(0.6%)増加しています。(図3)。

【図3 科研費の1課題当たりの平均配分額(直接経費)の推移】(新規+継続)



【表2 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧（令和4年度 新規採択分 主な研究種目）】

※資料1-1-1から抜粋・加工

令和5年1月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)	配分額 (千円)	1課題当たりの配分額	
	応募 (件)	採択 (件)			平均 (千円)	最高 (千円)
科学研究費	[94,360] 91,674	[26,349] 26,240	[27.9] 28.6	[62,498,900] 61,064,600 [18,319,380]	[2,372] 2,327	[194,900] 186,300
特別推進研究	[104] 88	[11] 10	[10.6] 11.4	[1,191,900] 971,800 [291,540]	[108,355] 97,180	[194,900] 186,300
新学術領域研究(研究領域提案型)	[1,414] 1,083	[364] 392	[25.7] 36.2	[890,900] 1,014,400 [304,320]	[2,448] 2,588	[5,000] 9,700
学術変革領域研究(A)	[3,100] 2,558	[497] 415	[16.0] 16.2	[4,422,100] 3,832,300 [1,149,690]	[8,898] 9,234	[113,600] 175,300
学術変革領域研究(B)	[1,630] 875	[112] 90	[6.9] 10.3	[839,200] 682,300 [204,690]	[7,493] 7,581	[19,000] 20,700
基盤研究	[59,757] 59,555	[16,921] 16,961	[28.3] 28.5	[41,649,000] 41,045,000 [12,313,500]	[2,461] 2,420	[95,000] 86,700
基盤研究(S)	[649] 649	[80] 80	[12.3] 12.3	[3,094,700] 3,233,400 [970,020]	[38,684] 40,418	[95,000] 86,700
基盤研究(A)	[2,292] 1,920	[628] 526	[27.4] 27.4	[6,965,400] 5,972,000 [1,791,600]	[11,091] 11,354	[42,900] 29,000
基盤研究(B)	[11,320] 11,552	[3,396] 3,403	[30.0] 29.5	[16,967,300] 17,061,200 [5,118,360]	[4,996] 5,014	[12,900] 13,800
基盤研究(C) *	[45,496] 45,434	[12,817] 12,952	[28.2] 28.5	[14,621,600] 14,778,400 [4,433,520]	[1,141] 1,141	[3,100] 3,100
挑戦的研究	[11,527] 10,756	[1,748] 1,688	[15.2] 15.7	[4,719,800] 4,688,900 [1,406,670]	[2,700] 2,778	[17,400] 17,200
挑戦的研究(開拓) *	[1,564] 1,365	[178] 183	[11.4] 13.4	[1,145,800] 1,244,200 [373,260]	[6,437] 6,799	[17,400] 17,200
挑戦的研究(萌芽) *	[9,963] 9,391	[1,570] 1,505	[15.8] 16.0	[3,574,000] 3,444,700 [1,033,410]	[2,276] 2,289	[4,700] 4,800
若手研究 *	[13,163] 13,142	[5,294] 5,293	[40.2] 40.3	[7,264,700] 7,388,500 [2,216,550]	[1,372] 1,396	[3,500] 3,400
研究活動スタート支援 *	[3,665] 3,617	[1,402] 1,391	[38.3] 38.5	[1,521,300] 1,441,400 [432,420]	[1,085] 1,036	[1,200] 1,100
国際共同研究加速基金	[848] 796	[201] 195	[23.7] 24.5	[469,400] 1,350,700 [405,210]	[2,335] 6,927	[8,500] 100,000
国際先導研究 *	[—] 131	[—] 15	[—] 11.5	[—] 869,400 [260,820]	[—] 57,960	[—] 100,000
国際共同研究強化(B) *	[848] 665	[201] 180	[23.7] 27.1	[469,400] 481,300 [144,390]	[2,335] 2,674	[8,500] 10,100
合計	[95,208] 92,470	[26,550] 26,435	[27.9] 28.6	[62,968,300] 62,415,300 [18,724,590]	[2,372] 2,361	[194,900] 186,300

(注1) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究、公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び国際共同研究強化(B))」について掲載。

(注2) []内は、前年度実績を示す。

(注3) []内は、間接経費(外数)。

(注4) * は、基金研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には令和4年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注5) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

【表3 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧（令和4年度 新規採択＋継続分 主な研究種目）】
 ※資料1-1-2から抜粋・加工

令和5年1月現在

研究種目	研究課題数		配分額（千円）	1課題当たりの配分額	
	応募（件）	採択（件）		平均（千円）	最高（千円）
科学研究費	[151,118] 148,017	[83,069] 82,493	[167,201,809] 166,170,346 [49,851,014]	[2,013] 2,014	[194,900] 349,000
特別推進研究	[152] 134	[59] 56	[5,111,700] 5,191,300 [1,557,390]	[86,639] 92,702	[194,900] 349,000
新学術領域研究(研究領域提案型)	[2,746] 1,763	[1,695] 1,072	[12,248,723] 7,851,499 [2,355,450]	[7,226] 7,324	[77,500] 56,300
学術変革領域研究(A)	[3,273] 3,226	[670] 1,083	[7,359,000] 10,186,053 [3,055,816]	[10,984] 9,405	[113,600] 175,300
学術変革領域研究(B)	[1,721] 1,078	[203] 293	[1,572,000] 2,245,400 [673,620]	[7,744] 7,663	[27,900] 27,900
基盤研究	[97,421] 98,151	[54,548] 55,467	[109,978,723] 110,066,097 [33,019,829]	[2,016] 1,984	[95,000] 86,900
基盤研究(S)	[963] 965	[394] 395	[11,216,800] 11,587,400 [3,476,220]	[28,469] 29,335	[95,000] 86,900
基盤研究(A)	[3,922] 3,611	[2,258] 2,199	[19,197,080] 18,078,200 [5,423,460]	[8,502] 8,221	[42,900] 29,000
基盤研究(B)	[19,293] 19,876	[11,332] 11,656	[41,569,943] 42,496,797 [12,749,039]	[3,668] 3,646	[12,900] 13,800
基盤研究(C) * 1	[73,243] 73,699	[40,564] 41,217	[37,994,900] 37,903,700 [11,371,110]	[937] 920	[3,100] 3,100
挑戦的研究	[13,678] 13,295	[3,899] 4,227	[9,212,500] 10,274,000 [3,082,200]	[2,363] 2,431	[17,400] 17,200
挑戦的研究(開拓) * 1	[1,846] 1,749	[460] 567	[2,448,900] 3,087,300 [926,190]	[5,324] 5,445	[17,400] 17,200
挑戦的研究(萌芽) * 1	[11,832] 11,546	[3,439] 3,660	[6,763,600] 7,186,700 [2,156,010]	[1,967] 1,964	[4,700] 4,800
若手研究 * 1	[26,894] 25,287	[19,025] 17,438	[18,760,000] 17,440,400 [5,232,030]	[986] 1,000	[3,500] 3,400
若手研究(A) * 2	[6] 3	[6] 3	[11,263] 5,796 [1,739]	[1,877] 1,932	[3,000] 3,000
若手研究(B) * 1, 2	[100] 35	[100] 35	[—] — [—]	[—] —	[—] —
研究活動スタート支援 * 1	[5,126] 5,045	[2,863] 2,819	[2,947,900] 2,909,800 [872,940]	[1,030] 1,032	[1,200] 1,200
国際共同研究加速基金	[1,551] 1,552	[904] 951	[3,023,600] 3,973,200 [1,191,960]	[3,345] 4,178	[10,200] 100,000
国際先導研究 * 1	[—] 131	[—] 15	[—] 869,400 [260,820]	[—] 57,960	[—] 100,000
国際共同研究強化(B) * 1	[1,551] 1,421	[904] 936	[3,023,600] 3,103,800 [931,140]	[3,345] 3,316	[10,200] 10,100
合計	[152,669] 149,569	[83,973] 83,444	[170,225,409] 170,143,546 [51,042,974]	[2,027] 2,039	[194,900] 349,000

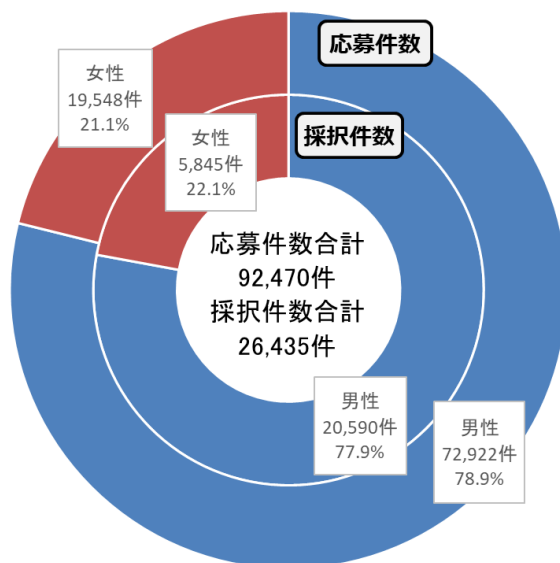
(注1) 本資料は、令和4年度に採択された新規課題に既に採択されている継続課題を加え集計したもの。
 (注2) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究、公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究(特設分野研究を除く)」、「挑戦的萌芽研究」、「挑戦的研究(特設審査領域を除く)」、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び国際共同研究強化(B))」について集計・掲載。
 (注3) []内は、前年度実績を示す。
 (注4) []内は、間接経費(外数)。
 (注5) * 1は、基金研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には令和4年度の当初計画に対する配分額を計上。
 (注6) * 2は、継続課題のみ計上。
 (注7) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

（Ⅱ）研究者の属性別の状況について（資料2）

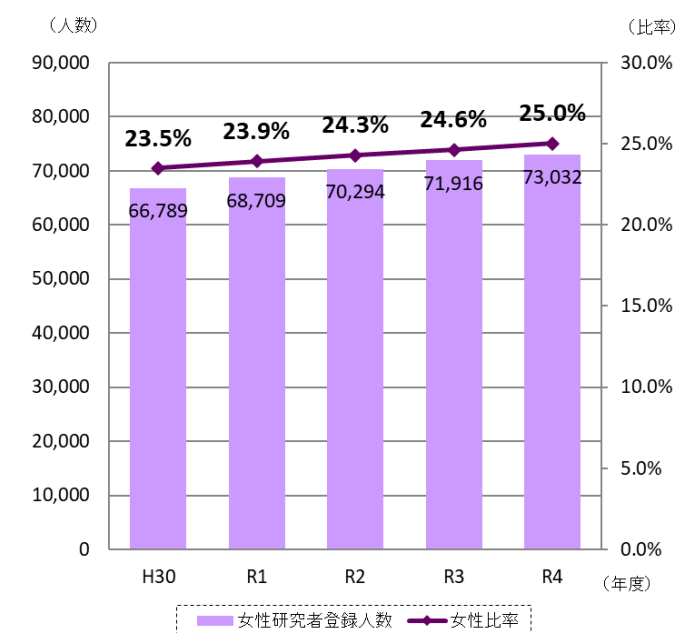
＜女性研究者の状況＞

- 女性研究者に係る採択件数は、5,845件となっており、全体の22.1%を占めています（図4-1）。新規採択率は、男性が28.2%、女性が29.9%となっており、女性の方がやや高くなっています（資料2-1）。
- 女性研究者の登録人数は増加傾向が続いており、女性研究者の応募・採択件数・比率とも増加しました。（図4-2及び図4-3）。

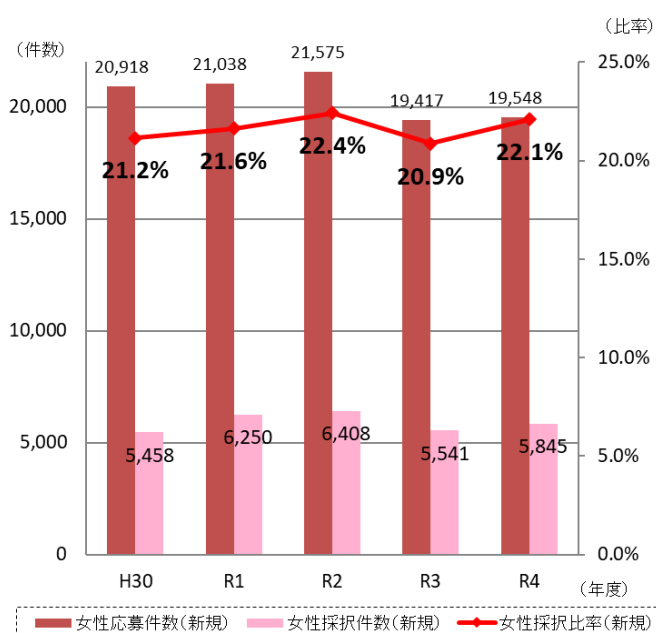
【図4-1 男女別 応募・採択の状況】（新規）



【図4-2 女性研究者登録人数・比率の推移】



【図4-3 女性の応募・採択状況の推移】

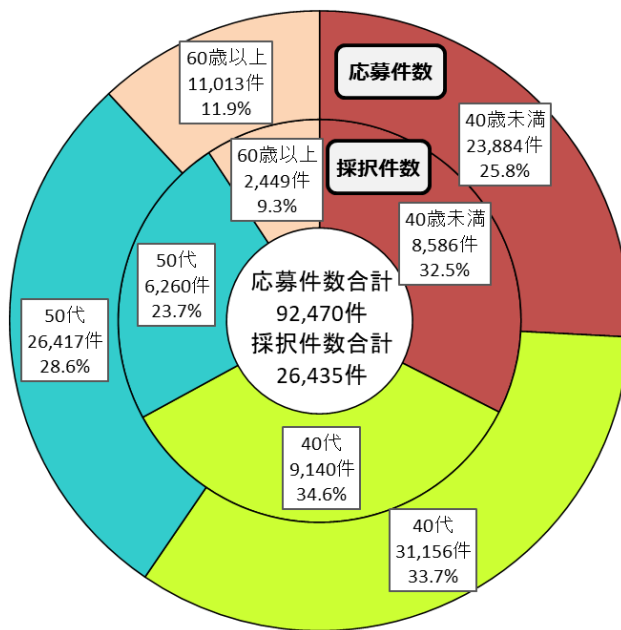


< 40歳未満の研究者の状況 >

- 40歳未満の研究者に係る採択件数は、全体の32.5%となっています（図5-1）。
 - 40歳未満の応募は減少傾向にあり、令和4年度の応募も減少しました（図5-2）。一方で、40歳未満の研究者の新規採択率は35.9%となっており、全体平均の28.6%を約7ポイント上回っています（図6）。
- ※ 平成30年度公募から「若手研究」の応募要件を「年齢制限」から「博士の学位取得後の年数制限」に変更したが、その際、39歳以下の博士号未取得者については、令和2年度公募まで「若手研究」の応募を認める経過措置を設けた。

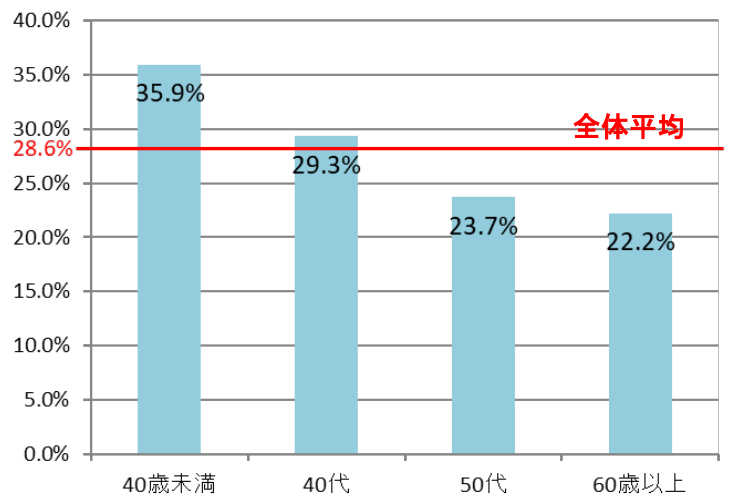
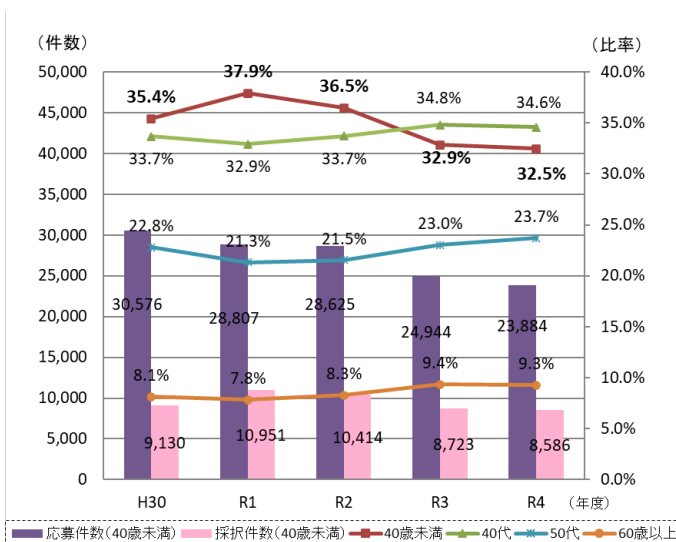
【図5-1 年齢別 応募・採択の状況】（新規）

年齢別 応募件数・採択件数



【図5-2 年齢別 応募・採択の状況の推移】

【図6 年齢別 採択率の状況】（新規）

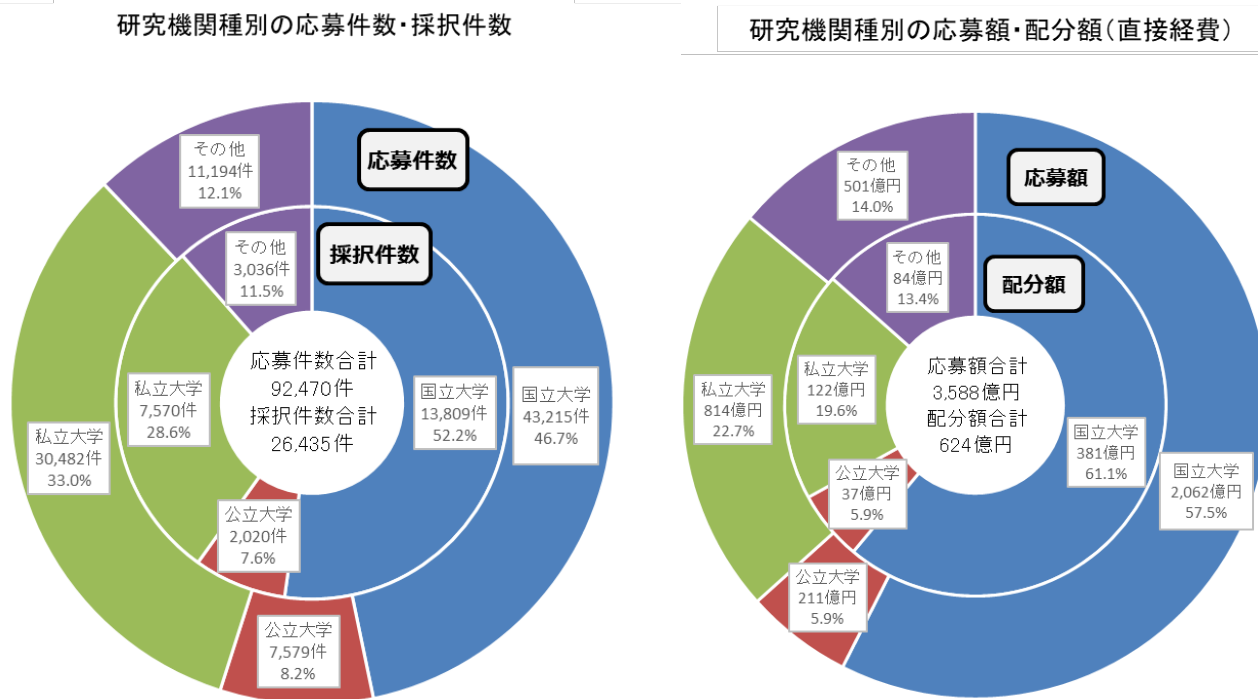


【Ⅲ】研究機関種別の状況について（資料3）

○ 応募件数・採択件数及び応募額・配分額について、研究者が所属する研究機関種別の割合を見ると、昨年度と同様、国立大学、私立大学、その他（国立研究開発法人、大学共同利用機関法人、短期大学、高等専門学校等）、公立大学の順となっています（図7-1）。

○ 昨年度と比較すると、公立大学と私立大学で採択件数が増加しました（図7-2）。

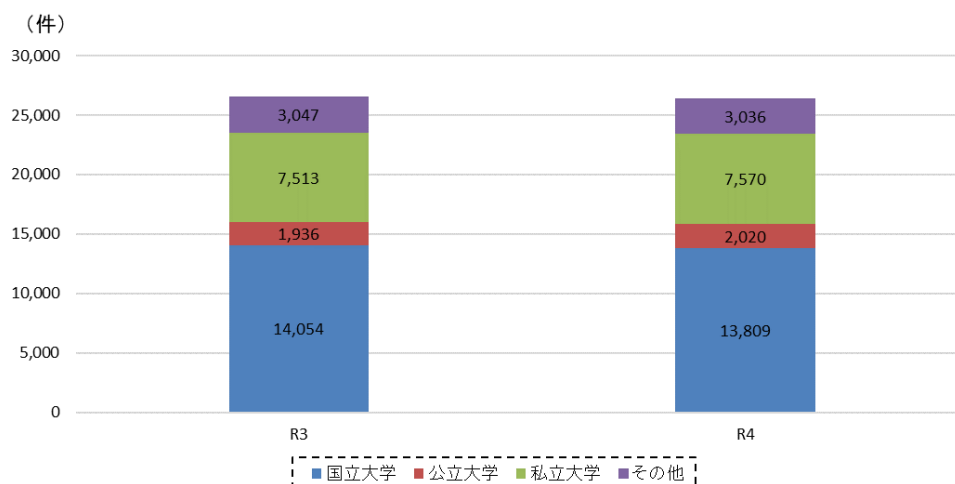
【図7-1 研究者が所属する研究機関種別に見た応募・採択の状況（件数・額）】（新規）



(注1) 研究代表者が所属する機関により整理。

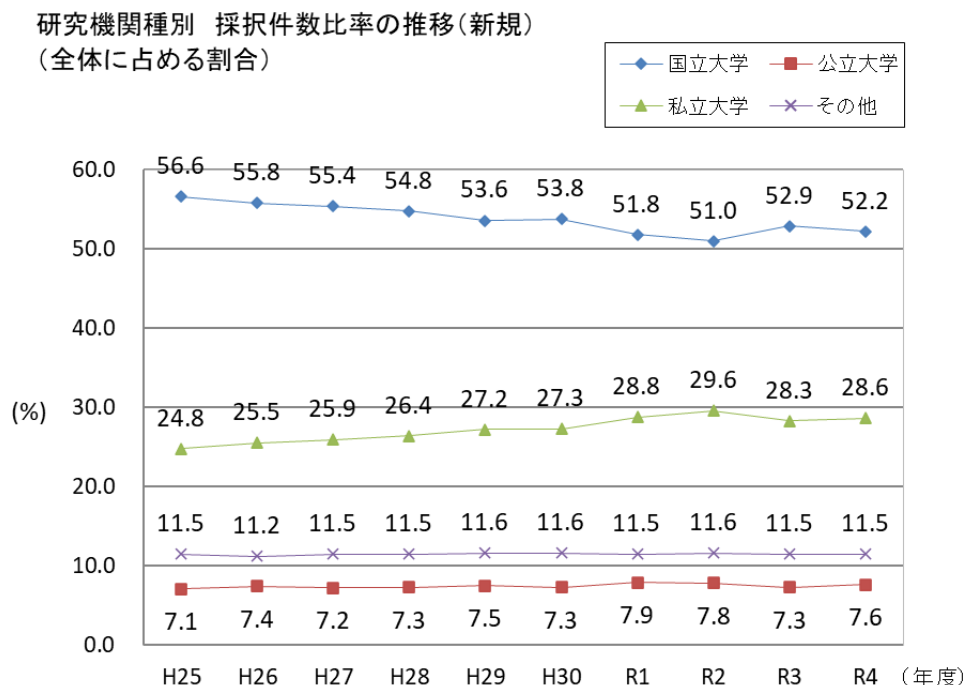
(注2) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

【図7-2 研究者が所属する研究機関種別に見た採択件数の推移】（新規）



○ 研究機関種別の比率は、長期にわたり私立大学の拡大傾向が続いています。最近10年間の新規の採択件数比率の推移について見ると、私立大学が占める割合は24.8%から28.6%に上昇する一方、国立大学は56.6%から52.2%に低下し、国・私立大学間の差は縮小（約8ポイント減少）しています（図8）。

【図8 研究者が所属する研究機関種別に見た採択件数比率の推移】（新規）



○ 研究者登録人数と新規応募件数との比率について見ると、国立大学の比率が最も高く、50.7%となっています（表4）。

【表4 研究者登録人数と科研費への応募件数】

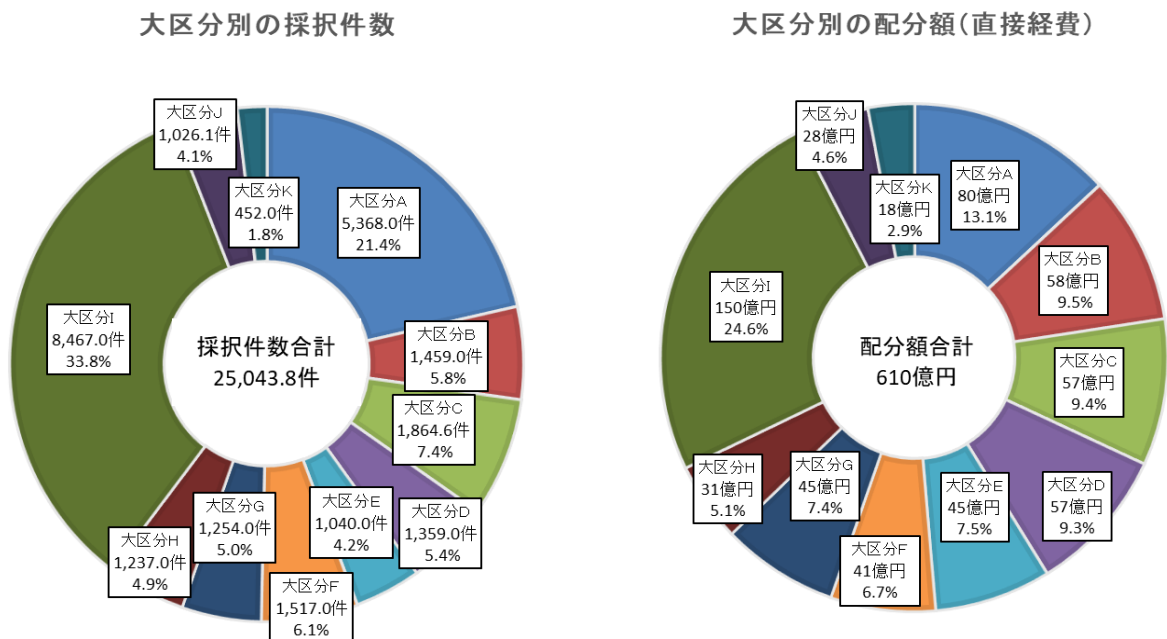
区分	研究者登録人数 (①)	新規応募件数 (②)	比率 (②/①)
国立大学	85,212 人	43,215 件	50.7%
公立大学	20,415 人	7,579 件	37.1%
私立大学	127,583 人	30,482 件	23.9%
その他	58,676 人	11,194 件	19.1%
計	291,886 人	92,470 件	31.7%

(注)「研究者登録人数」は令和3年11月時点での所属により分類。

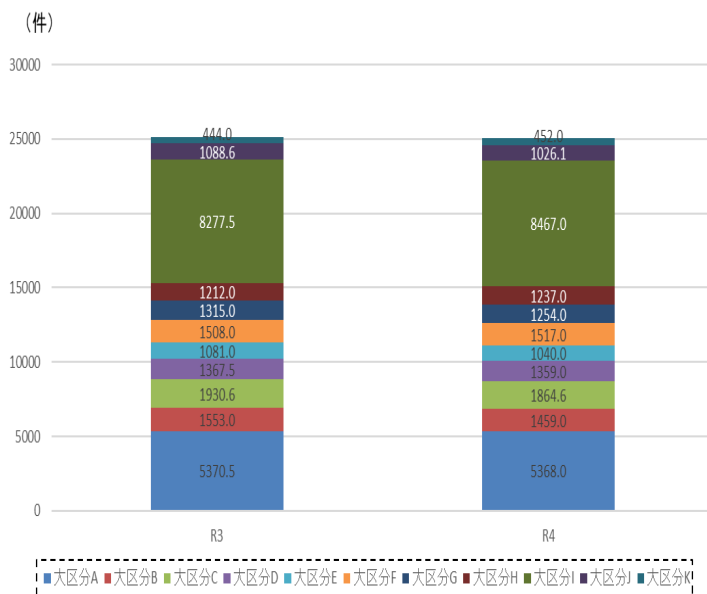
(IV) 審査区分別の状況について (資料4)

- 大区分別の採択件数は、多い順に大区分I (「医・歯学関連」) が33.8%、大区分A (「人文学・社会科学関連」) が21.4%、大区分C (「工学(機械、電気電子、土木等)関連」) が7.4%となっています。大区分別の配分額は、多い順に大区分Iが24.6%、大区分Aが13.1%、大区分B (「数物系科学関連」) が9.5%となっています。(図9-1)
- 昨年度と比較すると、大区分F、H、I、Kにおいて採択件数が増加しました。(図9-2)
- それぞれの大区分に含まれる中区分については表5のとおりです。

【図9-1 大区分別の採択件数・配分額】(新規)



【図9-2 大区分別の採択件数の令和3年度から令和4年度の推移】(新規)



※A~Kの大区分については、各大区分の対象分野が固定的に捉えられることのないよう具体的な分野名は付さず、アルファベット表記としているが、各大区分は概ね下記のような研究に関連している。

- ・大区分Aは「人文学・社会科学関連」
- ・大区分Bは「数物系科学関連」
- ・大区分Cは「工学(機械、電気電子、土木等)関連」
- ・大区分Dは「工学(材料、ナノ、応用物理等)関連」
- ・大区分Eは「化学関連」
- ・大区分Fは「農学関連」
- ・大区分Gは「生物学関連」
- ・大区分Hは「薬学関連」
- ・大区分Iは「医・歯学関連」
- ・大区分Jは「情報学関連」
- ・大区分Kは「環境学関連」

(注1) 対応する大区分が複数ある中区分及び小区分は、採択件数、配分額を按份して集計している。

(注2) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び国際共同研究強化(B))」について分類。(「研究活動スタート支援」は個別の審査区分により審査をしているため含まない。)

(注3) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

【表5 審査区分表】

大区分A	中区分名
	思想、芸術およびその関連分野
	文学、言語学およびその関連分野
	歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野
	地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野
	法学およびその関連分野
	政治学およびその関連分野
	経済学、経営学およびその関連分野
	社会学およびその関連分野
	教育学およびその関連分野
	心理学およびその関連分野

大区分B	中区分名
	代数学、幾何学およびその関連分野
	解析学、応用数学およびその関連分野
	物性物理学およびその関連分野
	プラズマ学およびその関連分野
	素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野
	天文学およびその関連分野
	地球惑星科学およびその関連分野

大区分C	中区分名
	材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野
	流体工学、熱工学およびその関連分野
	機械力学、ロボティクスおよびその関連分野
	電気電子工学およびその関連分野
	土木工学およびその関連分野
	建築学およびその関連分野
	航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野
	社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野

大区分D	中区分名
	材料工学およびその関連分野
	化学工学およびその関連分野
	ナノマイクロ科学およびその関連分野
	応用物理物性およびその関連分野
	応用物理工学およびその関連分野
	原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野
	人間工学およびその関連分野 *

大区分E	中区分名
	物理化学、機能物性化学およびその関連分野
	有機化学およびその関連分野
	無機・錯体化学、分析化学およびその関連分野
	高分子、有機材料およびその関連分野
	無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野
	生体分子化学およびその関連分野

大区分F	中区分名
	農芸化学およびその関連分野
	生産環境農学およびその関連分野
	森林園科学、水圏応用科学およびその関連分野
	社会経済農学、農業工学およびその関連分野
	獣医学、畜産学およびその関連分野

大区分G	中区分名
	分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野
	細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野
	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野
	神経科学およびその関連分野

大区分H	中区分名
	薬学およびその関連分野
	生体の構造と機能およびその関連分野
	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野

大区分I	中区分名
	腫瘍学およびその関連分野
	ブレインサイエンスおよびその関連分野
	内科学一般およびその関連分野
	器官システム内科学およびその関連分野
	生体情報内科学およびその関連分野
	恒常性維持器官の外科学およびその関連分野
	生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野
	口腔科学およびその関連分野
	社会医学、看護学およびその関連分野
	スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野
	人間工学およびその関連分野 *

大区分J	中区分名
	情報科学、情報工学およびその関連分野
	人間情報学およびその関連分野
	応用情報学およびその関連分野

大区分K	中区分名
	環境解析評価およびその関連分野
	環境保全対策およびその関連分野

* 印は複数の大区分に表れる中区分